# 2017年度前期総合ビジネス学科シラバス目次

（五十音順に配置）

## 共通科目


| 科目名 | 担当者 | ページ | 科目名 | 担当者 | ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| 英語Ⅰ | 渡慶次 | 1 | 人生と哲学 | 福地 | 7 |
| 英語Ⅰ | 又吉 | 3 | 生活と芸術 | 島袋 | 8 |
| 教養演習 | 又吉 | 5 | 生活と健康 | 又吉 | 9 |
| 人と文学 | 大城（貞） | 6 | 中国語Ⅰ | 周 | 10 |


## 専門科目


| 科目名 | 担当者 | ページ | 科目名 | 担当者 | ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| 沖縄観光とﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ | 上間 | 12 | ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰｶｲﾌﾞ | 又吉 | 40 |
| 沖縄の経済と暮らし | 野原 | 13 | 特殊講義Ⅱ | 元山 | 41 |
| ｵﾙﾀﾅﾃｨﾌﾞﾂｰﾘｽﾞﾑ | 仲村 | 14 | 日本語表現Ⅰ | 大城（貞） | 42 |
| 観光学概論 | 仲村 | 15 | 人間関係の心理学 | 金城 | 43 |
| 観光経営論 | 仲村 | 16 | ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ | 仲村 | 44 |
| 観光ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ | 野原 | 17 | ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務演習Ⅰ | 宇久田 | 45 |
| 企業法基礎 | 福里 | 18 | ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務概論 | 元山 | 46 |
| 基礎統計学 | 渡久地 | 19 | ﾋﾞｼﾞﾈｽ心理学概論 | 金城 | 47 |
| 経営学 | 元山 | 20 | ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 | 渡慶次 | 48 |
| 経済原論Ⅱ | 渡久地 | 21 | ﾋﾞｼﾞﾈｽ中国語 | 周 | 49 |
| ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計 | 稲福 | 22 | 秘書実務Ⅰ | 宇久田 | 50 |
| 茶道 | 秦 | 23 | ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ | 名城 | 51 |
| 実習事前指導 | 元山 | 24 | ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習 | 親泊（元） | 52 |
| 消費者心理と悪質商法 | 福里 | 25 | ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ概論 | 親泊（政） | 53 |
| 情報機器利用プレゼン演習 | 渡久地 | 26 | ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 渡久地 | 54 |
| 女性とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ | 酒元 | 27 | ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 渡慶次 | 55 |
| 診療報酬請求事務 | 新垣 | 29 | ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 又吉 | 56 |
| 診療報酬請求制度（前半8週） | 新垣 | 30 | ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 元山 | 57 |
| 診療報酬請求制度（後半8週） | 仲真 | 31 | 簿記原理Ⅰ | 稲福 | 58 |
| ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ概論 | 金城 | 32 | 簿記原理Ⅰ | 名城 | 59 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 金城 | 33 | ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 | 仲村 | 60 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 渡久地 | 34 | ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ | 高嶺 | 61 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 渡慶次 | 35 | 民法Ⅰ | 福里 | 62 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 仲村 | 36 | ﾒﾃﾞｨｱと旅行の心理学 | 又吉 | 63 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 福里 | 37 | ﾜｰﾌﾟﾛ・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀⅠ | 新川 | 64 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 又吉 | 38 | ﾜｰﾌﾟﾛ・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀⅠ | 仲里 | 65 |
| 卒業研究ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ | 元山 | 39 | | | |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 英語Ⅰ（前半） | 担当者 | 渡慶次 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | － | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | 興味深いリーディング内容から話す、読む、書く能力をバランスよく修得できる。日常生活で使われる表現を学び、自然な英語でやりとりできる能力を身につける。 |
| 授業概要 | リーディングパートは馴染みやすい文章で、例文等はスタンダードな英語表現が身につくように工夫されている。様々な形式の設問で英語の読み、書き、聞く，話すを修得する。　＊ボーダレス時代に対応できるように英語検定等の受験方法を学ぶ。 |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 1回 | Teddy Bears: Opening Ques.; Word Defini.; Complete the Sentences etc. |
| 2回 | Reading; True or False; Short An.; Multiple Choices; Grammar & Expres. |
| 3回 | April Fools' Day: Opening Ques.; Word Defini.; Complete the Sentences etc. |
| 4回 | Reading; True or False; Short An.; Multiple Choices; Grammar & Expres. |
| 5回 | The Biggest Birthday Present |
| 6回 | Funny English Jokes |
| 7回 | Eat Well, Eat Smart |
| 8回 | Three Popular Mysteries |
| 9回 | Protect Our Environment |
| 10回 | Laughing and Thinking |
| 11回 | Body Art |
| 12回 | The Most Extreme Maratons |
| 13回 | Fortune Cookies |
| 14回 | Gap Year |
| 15回 | High Up in the Alps |
| 16回 | Supplementary Lecture, Makeup Lesson：Midterm Examination |

| | |
|---|---|
| テキスト | ・“Reading Success 1“、A. Sato, V. Tidwell.、SEIBIDO 成美堂、2,000円＋税別 |
| 参考資料等 | ・「American Profile　アメリカン・プロファイル」、小林英雄 / Elizabeth Lee、三修社<br>・“Health & Environment Reports from VOA I - VOA” 健康と環境ﾚﾎﾟｰﾄ1、安浪／Richard S. L.、松柏社 |
| 授業の評価方法・基準 | 1. Participation：積極的クラス参加　(15%)　2. Attitude：授業態度 (15%)<br>3. Assignment 課題・レポート (30%)　4. Examination：試験 (40%) |
| 履修条件 | ・特になし。 |
| 事前事後の学習 | ・事前に授業内容をあらかじめ把握して、予習で不明、不理解な部分等を明らかにして備える。<br>・事後学習で、授業で学んだこと等を反芻して記憶に定着させ、実践し、智慧へと深化させる。 |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 月：12：10-13：00,　水：12：10-13：00, 金：12：10-13：00, その他・アポ要。 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | ◎事務局：教務課、学生支援課等を通して行って下さい。ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ保護・個人情報保護の為。<br>○担当者ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ［o.tokeshi.owjc@vesta.ocn.ne.jp］ |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 英語Ⅰ（後半） | 担当者 | 渡慶次 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | － | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | 日本人の学生が、米国の大学に入学し、アルバイトをしながら実生活を目指すという設定等を通してサバイバル・イングリッシュを習得することを目指します。入学手続き、アパート探し、同世代の若者たちとの交流、生活の仕方や生きた会話表現を身につける。 |
| 授業概要 | 1.Overview で各ユニットのまとめの説明でリーディング力を修得する。 2.Dialog でヴィジュアル教材で会話表現力を学ぶ。 3.Drills で内容把握、語句置き換えの反復練習し、同意語・反意語で語彙力アップ、Use each word once で文法確認し、ディクテーションで聞き取り力を習得する。 4.インフォメーション資料で情報習得力を深める。 ＊ボーダレス時代に対応できるように英語検定等の受験方法を学ぶ。 |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 17回 | Unit 1 Airport : Scene 1,2,3 |
| | 18回 | Unit 2 School : Scene 1 |
| | 19回 | Unit 3 Housing : Scene 1,2 |
| | 20回 | Unit 4 Repairs : Scene 1,2 |
| | 21回 | Unit 5 Street Directions Scene 1,2 |
| | 22回 | Unit 6 Shopping : Scene 1,2 |
| | 23回 | Unit 7 Finding Work: Scene 1 |
| | 24回 | Unit 8 Dining : S 1 |
| | 25回 | Unit 9 Crime and Safety : Scene 1,2 |
| | 26回 | Unit 10 NYC Metro : Travel Scene 1 |
| | 27回 | Unit 11 English Presentations : Scene 1,2 |
| | 28回 | Unit 12 Banking : Scene 1,2 |
| | 29回 | Unit 13 Medical Treatment: Scene 1,2,3 |
| | 30回 | Unit 14 Leisure : Scene 1,2 |
| | 31回 | Unit 15 Professional Development : Scene 1,2 |
| | 32回 | Supplementary Lecture, Makeup Lesson : Final Examination |

| | |
|---|---|
| テキスト | ・“CitiPals in New York”, Mary Tadokoro, Asahi Press、2,200円＋税別 |
| 参考資料等 | ・「留学英会話ハンドブック」仁木久恵（著）研究社、 ・「英語耳」松沢喜好著(アスキー)、<br>・「国弘正雄の英語の学びかた」国弘正雄著(たちばな出版)、 ・「英語達人塾」藤兆史著(中央公論新書) |
| 授業の評価方法・基準 | 1. Participation：積極的クラス参加 (15%) 2. Attitude：授業態度 (15%)<br>3. Assignment 課題・レポート (30%) 4. Examination :試験 (40%) |
| 履修条件 | ・特になし。 |
| 事前事後の学習 | ・事前に授業内容をあらかじめ把握して、予習で不明、不理解な部分等を明らかにして備える。<br>・事後学習で、授業で学んだこと等を反芻して記憶に定着させ、実践し、智慧へと深化させる。 |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 月:12：10-13：00, 水：12：10-13：00, 金：12：10-13：00, その他・アポ要。 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | ◎事務局：教務課、学生支援課等を通して行って下さい。ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ保護･個人情報保護の為。<br>○担当者ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ［o.tokeshi.owjc@vesta.ocn.ne.jp ］ |

| 1科目区分 | 共通 | 科目名 | 英語Ⅰ（前半） | 担当者 | 又吉　斎 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | ― | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | あいさつや道案内、ショッピングでの会話など、いわゆる日常会話の学習に留まらず、外国人に地域文化について簡単な英語を用いて説明できる英語表現力を習得する。また、国際化に伴う異文化間の相互理解を目指す上で必要とされる異文化コミュニケーション能力を磨き、国際人としての教養を身につける。 |
| 授業概要 | 毎回ユニークな慣用表現や映像（洋画・洋楽）を通した英語表現を中心に学習しながら、特に口頭での実践練習を通して、主体的に物事を考え、自己を表現する姿勢を身につける。また、相手を理解しようとする積極的態度を養うために、ペアやグループ・ワークを通して、協働して学ぶことの大切さを理解すると同時に、それぞれのコミュニケーション能力を磨く。 |

| 計画 | | |
|---|---|---|
| | 1回 | はじめに 「コミュニケーション能力とは」 |
| | 2回 | 自己紹介①　英文作成・口頭発表練習 |
| | 3回 | 自己紹介② 口頭発表（前半グループ） |
| | 4回 | 自己紹介③ 口頭発表（後半グループ） |
| | 5回 | 映画に見る自己紹介の表現 |
| | 6回 | 他者紹介 ① ペアワーク（インタビュー） |
| | 7回 | 他者紹介 ② 口頭発表（前半グループ） |
| | 8回 | 他者紹介 ③ 口頭発表（後半グループ） |
| | 9回 | 英語で地域を紹介（沖縄県の概要） |
| | 10回 | 英語の早口ことばにチャレンジ!! |
| | 11回 | 大きな数字の読み方　①（基本ポイント） |
| | 12回 | 大きな数字の読み方　②（練習問題） |
| | 13回 | Tea Break （映画鑑賞：「家族愛」）前篇 |
| | 14回 | Tea Break （映画鑑賞：感想発表）後編 |
| | 15回 | 道案内の英語　①　（表現・発音チェック） |
| | | |

| | |
|---|---|
| テキスト | 指定図書はありません。随時、講義にて資料を配布します。 |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>適宜、講義において紹介します。 |
| 授業の評価方法・基準 | ①学期末テスト（60%）、②口述試験・又は口頭発表（30%）、③受講態度等（10%）を総合的に評価します。 |
| 履修条件 | 受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠りなど）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。 |
| 事前事後の学習 | 辞書・電子辞書を携帯し、いつでもどこでも活用して語彙力 UP を図る習慣を身につけること。 |
| オフィスアワー | 水曜日 13：00～16：00　※　なるべく事前にアポイントメントを取ること。 |
| 受講生へのメッセージ | （1）　自主教材「自己表現力シリーズ」のレポートの提出期限を厳守すること<br>（2）　自主教材「保育の英会話シリーズ」のグループ発表等へ積極的に参加すること |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 英語Ⅰ（後半） | 担当者 | 又吉　斎 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | | ― | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | あいさつや道案内、ショッピングでの会話など、いわゆる日常会話の学習に留まらず、外国人に地域文化について簡単な英語を用いて説明できる英語表現力を習得する。また、国際化に伴う異文化間の相互理解を目指す上で必要とされる異文化コミュニケーション能力を磨き、国際人としての教養を身につける。 |
| 授業概要 | 毎回ユニークな慣用表現や映像（洋画・洋楽）を通した英語表現を中心に学習しながら、特に口頭での実践練習を通して、主体的に物事を考え、自己を表現する姿勢を身につける。また、相手を理解しようとする積極的態度を養うために、ペアやグループ・ワークを通して、協働して学ぶことの大切さを理解すると同時に、それぞれのコミュニケーション能力を磨く。 |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 16 回 | 道案内の英語　②　（理解度チェック） |
| | 17 回 | 海外での英会話　①（入国審査） |
| | 18 回 | 海外での英会話　②（レストラン） |
| | 19 回 | 海外での英会話　③（ファストフード店） |
| | 20 回 | 海外での英会話　④（ショッピング） |
| | 21 回 | 海外での英会話　⑤（スーパー） |
| | 22 回 | とっさの英会話　⑥（病気・ケガ） |
| | 23 回 | とっさの英会話　⑦（様々なトラブル） |
| | 24 回 | 英語でゲーム！①:「感情表現」紹介・練習 |
| | 25 回 | 英語でゲーム！②:「感情表現」実践 |
| | 26 回 | 英語で地域文化を紹介　①:練習 |
| | 27 回 | 英語で地域文化を紹介　②:発表 |
| | 28 回 | Tea Break（映画鑑賞:「友情」）前篇 |
| | 29 回 | Tea Break（映画鑑賞: 感想発表）後編 |
| | 30 回 | 学期末テスト |
| | 31 回 | テスト返却（解答・解説）　まとめ |

| | |
|---|---|
| テキスト | 指定図書はありません。随時、講義にて資料を配布します。 |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>適宜、講義において紹介します。 |
| 授業の評価方法・基準 | ①学期末テスト（60%）、②口述試験・又は口頭発表（30%）、③受講態度等（10%）を総合的に評価します。 |
| 履修条件 | 受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠りなど）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。 |
| 事前事後の学習 | 辞書・電子辞書を携帯し、いつでもどこでも活用して語彙力 UP を図る習慣を身につけること。 |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 水曜日 13：00～16：00　※　なるべく事前にアポイントメントを取ること。 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | 授業に関する相談や要望があれば遠慮なく声をかけて下さい。<br>連絡先: matayoshi-i@owjc.ac.jp |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 教養演習 | 担当者 | 又吉 斎 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | — | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | ビジネスにおける国際化・グローバル化に対応するための英語力の習得を図ると同時に、就職採用試験や編入学試験の英語テストに対応すべく、ビジネス社会で広く採用されている TOEIC®を利用し、特に「読む力」・「聞く力」・「書く力」の習得を図る。具体的には、 TOEIC® 600 点（10 点～990 点）のレベルを目指す。 |
| 授業概要 | はじめに TOEIC®の設問形式を理解し、出題の傾向と対策（効果的な学習方法）を学ぶ。毎回、練習問題（リスニング・ライティング・英文法）に取り組みながら、TOEIC®の出題傾向と解答のポイントを整理し、効果的な学習方法を身につける。その他、必要に応じて、英文法の確認や長文読解のポイントを解説する。 |

**授業計画**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 回 | TOEIC®について | 2 回 | Lesson1&2: 名詞・代名詞 |
| 3 回 | Lesson3: 動詞 | 4 回 | Lesson4: 助動詞 |
| 5 回 | Lesson5: 形容詞・副詞 | 6 回 | Lesson6: 語・句・節・文の違い |
| 7 回 | Lesson7: 文の種類 | 8 回 | Lesson8: 主語・述語の一致 |
| 9 回 | Lesson9: 時制(現在・進行) | 10 回 | Lesson10: 時制(過去・現在完了) |
| 11 回 | Lesson11: 時制(過去進行・完了) | 12 回 | Lesson12: 動詞の変形 |
| 13 回 | Lesson13: 未来を表す表現 | 14 回 | Lesson14: 分詞構文 |
| 15 回 | Lesson15: 関係代名詞 | 16 回 | Lesson16: 関係副詞 |
| 17 回 | Lesson17: 原級・比較級・最上級 | 18 回 | Lesson18: 接続詞 |
| 19 回 | Lesson19: 前置詞 | 20 回 | Lesson20: 不定詞・動名詞 |
| 21 回 | Lesson21: 受動態 | 22 回 | Lesson22: 仮定法 |
| 23 回 | Lesson23: 疑問詞 | 24 回 | Lesson24: 単語・熟語(状況別) |
| 25 回 | Lesson25: 単語・熟語(ジャンル別) | 26 回 | Lesson26: 長文読解のポイント① |
| 27 回 | Lesson27: 長文読解のポイント② | 28 回 | Lesson28: 長文読解のポイント③ |
| 29 回 | 予想問題(リスニング) | 30 回 | 予想問題(筆記試験) |
| 31 回 | 予想問題の解答・解説、まとめ | | |

| | |
|---|---|
| テキスト | 「TOEIC®テスト書き込みノート（文法編）」〔Gakken：2012〕 ¥1,296（税込） |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>適宜、講義において紹介します。 |
| 授業の評価方法・基準 | ①学期末テスト(50%)、②課題ノート(40%)、③受講態度等(10%)を総合的に評価します。 |
| 履修条件 | 受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠りなど）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。 |
| 事前事後の学習 | 辞書・電子辞書を携帯し、いつでもどこでも活用して語彙力 UP を図る習慣を身につけること。 |
| オフィスアワー | 水曜日 13：00～16：00 ※ なるべく事前にアポイントメントを取ること。 |
| 受講生へのメッセージ | 授業に関する相談や要望があれば遠慮なく声をかけて下さい。<br>連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 人と文学 | 担当者 | 大城（貞） | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選択 | 免許・資格要件等 | — | | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業の到達目標 | 古今東西の文学作品を通して、社会や時代と関わる人間の普遍的な姿を考察する。特に沖縄の文学作品に描かれた人物像については理解を深め、将来の豊かな生活を営む上での基盤にする。 | |
| 授業概要 | 講義形式の授業を行い、それぞれの時代に活躍した作家や作品をジャンルごとに概観する。特にこの学びを通して、土地と結びついた沖縄文学の特質について理解を深め、人間としての豊かな生き方を考える契機にする。 | |
| 授業計画 | 1回 | はじめに。沖縄古典文学概説（組踊など） |
| | 2回 | 沖縄の近代文学概説(1)散文 |
| | 3回 | 沖縄の近代文学概説(2)韻文 |
| | 4回 | 現代小説の沃野(1)戦後文学の出発 |
| | 5回 | 現代小説の沃野(2)芥川賞作家 |
| | 6回 | 現代小説の沃野(3)活躍する作家たち |
| | 7回 | 戦後の詩人たち(1)40年代～50年代 |
| | 8回 | 戦後の詩人たち(2)60年代～70年代 |
| | 9回 | 戦後の詩人たち(3)80年代～90年代 |
| | 10回 | 戦後の詩人たち(4)現代・方言詩の挑戦 |
| | 11回 | 戦後の歌人たち |
| | 12回 | 戦後の俳人たち |
| | 13回 | 日本文学名作案内(1)近代 |
| | 14回 | 日本文学名作案内(2)現代 |
| | 15回 | 世界文学名作案内（近代・現代） |
| | 16回 | まとめ・ペーパーテストレポート提出 |
| テキスト | 特になし。授業の際に各回ごとのレジュメを配布する。 | |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>『沖縄文学選』2015年、勉誠出版、2600円。<br>『「沖縄文学」への招待』2015年、沖縄タイムス社、1000円。 | |
| 授業の評価方法・基準 | 文学作品に関する感想文やレポート提出による評価（50%）<br>小課題やペーパーテストによる評価（50%） | |
| 履修条件 | 総合ビジネス学科1年次 | |
| 事前事後の学習 | 文学作品を数多く読み、理解を深めること。 | |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 授業終了後 | |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | 日ごろから沖縄の言語や文学作品に関心を持ち、郷土への理解を深めるとともに、豊かな日々を送ることができるようにする。 | |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 人生と哲学 | 担当者 | 福地 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選択 | 免許・資格要件等 | — | | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業の到達目標 | 現代の人間は哲学を学ぶことに熱心ではない。必要性を感じていないからか。人生の意義を究明する方法を知らないからか。 | |
| 授業概要 | 人間は幸せになるためにこの世に生を受けた。幸せとは物質的豊かさをのみを指しているのか。唯物論と称する偉大な実験はすべて失敗している。近隣諸国の援助を求めている指導者は自分の思想の貧困を知らない。 | |
| 授業計画 | 1回 | 思考の目標。学問の究極的ゴールはなにか。 |
| | 2回 | プラス思考について考える。 |
| | 3回 | 幸せの土台は「愛」である。Philosophy とは知恵を愛するの意である。 |
| | 4回 | 知恵とは「自己を知ること」を意味し、他者から教わるものではない。 |
| | 5回 | 道元禅師は「自己を知ることは、自己に習うことであり、自己を離れることである」 |
| | 6回 | 自己に執着している人間は他者を否定し諍いの原因になることを知らない。 |
| | 7回 | 学者や知識人と称する人間はマイナス思考の中で全能感を満喫している。 |
| | 8回 | ソクラテスが哲学の必要性を意識したのは、Sophist との対話が出発だった。 |
| | 9回 | Depression（鬱病）と不景気の関係 |
| | 10回 | 自虐思考と Stress 社会の誤解 |
| | 11回 | 親子関係にある不安と虚無感 |
| | 12回 | 想像性、創造性　川端康成「伊豆の踊り子」にみる自己肯定の意味 |
| | 13回 | 病跡学と哲学 |
| | 14回 | リーダーの言葉の重みと軽さ「イデオロギーよりアイデンティティ」とは |
| | 15回 | 唯我独尊とは自己の価値観を強制し、自己の非は断じて認めない思想である。 |
| | 16回 | テスト |
| テキスト | 特になし。 | |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】琉球舞踊―鑑賞の手引き―沖縄県／琉球舞踊入門　宜保榮治郎　那覇出版社／なし | |
| 授業の評価方法・基準 | 初回の講義で説明します。 | |
| 履修条件 | 履修条件等については講義の進度によって説明する | |
| 事前事後の学習 | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | |
| 受講生へのメッセージ | | |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 生活と芸術 | 担当者 | 島袋(君) | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選択 | 免許・資格要件等 | — | | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業の到達目標 | ・専門的な技能を養うことにより、沖縄の文化（琉球舞踊）が身につく。<br>・「かぎやで風」を学習する。 | |
| 授業概要 | ・琉球舞踊を知るということは、沖縄の歴史を知ることにつながる。<br>・「かぎやで風」は琉球古典舞踊を代表するもので、沖縄の祝賀にはかかせない。「かぎやで風」を習得することによって地域社会に貢献できる。<br>・物事を多面的に捉えることができ、人間としての幅広い教養を身につけ、さらに高度な専門性を追求する情熱と行動力を養う。 | |
| 授業計画 | 1回 | オリエンテーション（授業の進め方・成績評価等の説明） |
| | 2回 | 琉球舞踊の歴史・古典舞踊・雑踊について |
| | 3回 | 琉球舞踊の特徴・「かぎやで風」の歌意等 |
| | 4回 | ストレッチ・琉舞の基本動作（歩み・構え等） |
| | 5回 | 「かぎやで風」指導 |
| | 6回 | 〃 |
| | 7回 | 〃 |
| | 8回 | 〃 |
| | 9回 | 組踊について |
| | 10回 | 「かぎやで風」の復習・雑踊（浜千鳥）指導 |
| | 11回 | 〃　　〃 |
| | 12回 | 〃　　〃 |
| | 13回 | 〃　　雑踊復習 |
| | 14回 | 〃　　〃 |
| | 15回 | 実技テスト「かぎやで風」 |
| | 16回 | 筆記テスト |
| テキスト | | |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】琉球舞踊―鑑賞の手引き―沖縄県／琉球舞踊入門 宜保榮治郎 那覇出版社／琉舞手帖 大道勇 ボーダーインク | |
| 授業の評価方法・基準 | 実技テスト４０％　筆記テスト３０％　グループワークへの参加度（平常態度含む）２０％　レポート１０％ | |
| 履修条件 | 軽装（長ズボン・Tシャツ）、足袋（靴下でも可）、扇子のある方は持参 | |
| 事前事後の学習 | 復習をする（週３回程）<br>これまでに学んだ授業内容を仲間と共に協力し教え合う | |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 授業終了後 | |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | 日常的に芸能に関する情報に関心を持つこと | |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 生活と健康 | 担当者 | 西関 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選択 | 免許・資格要件等 | 医事管理士必修、医療管理秘書士必修 | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | 本講義では心身両面の健康について各ライフステージを通じて知識を深め、いずれは社会人として自らを健康管理できるよう、生活習慣に関する考え方を身につける。 |
| 授業概要 | 本講義では　テキスト、配布資料等を用い、各ライフステ―ジにおける様々な健康問題や<br>日常生活における健康管理について学ぶ。<br>さらに疾病予防のための適切な生活習慣や健康管理の実際についてグループワークを通して考察する。 |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 1回 | 健康の概念・指標 |
| | 2回 | 解剖・生理　主な身体各部の名称と働き　　主な疾病について |
| | 3回 | ライフサイクルと健康　―乳幼児期の特徴 |
| | 4回 | ライフサイクルと健康　―学童期・思春期の特徴 |
| | 5回 | ライフサイクルと健康　―青年期の特徴 |
| | 6回 | ライフサイクルと健康　―成人・高齢期の特徴 |
| | 7回 | 女性各期の健康 |
| | 8回 | 日常生活と健康　身体・生理的要因　―睡眠・食生活 |
| | 9回 | 日常生活と健康　身体・生理的要因　―運動・排泄・清潔 |
| | 10回 | 健康に影響を及ぼす要因への対応　飲酒・喫煙・薬物 |
| | 11回 | 健康に影響を及ぼす要因への対応　体重・ストレス　他 |
| | 12回 | 生活習慣病・健診・健康指導について |
| | 13回 | 沖縄の環境問題と健康の問題点　改善に対する取り組みについて |
| | 14回 | 「適切な生活習慣やその実践」についてグループディスカッション |
| | 15回 | これまでの講義の総括 |
| | 16回 | テストおよび　テストの解説 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 後閑容子他　編　「健康科学概論」　　ヌーヴェルヒロカワ |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>厚生統計協会編　「国民衛生の動向」2016/2017　厚生統計協会<br>他は随時授業で紹介していきます。 |
| 授業の評価方法・基準 | 期末試験成績　50%<br>レポート30%　グループワークへの参加度20%<br>総合的に評価します。 |
| 履修条件 | 特になし |
| 事前事後の学習 | 日頃からテレビや新聞・雑誌などで健康や環境に関する記事に目を通したり、興味を持ってください。 |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 授業前後 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | まずは身近なところから健康について考えてみましょう。 |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 中国語Ⅰ（前半） | 担当者 | 周　雪 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | ― | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | 日本の中でも、沖縄は地理的にも歴史的にも中国に一番近い県です。この講座では「話せる中国語」を目指してチャレンジさせる。 |
| 授業概要 | ①中国語は四つの声調を持つ言葉です。まずその基本となるピンインについて学ぶ。<br>②簡単な会話文を中心に学んでいく。<br>③基本文型について学ぶ。<br>④聴覚教材等を使用して、中国人の生活習慣、風俗文化やものの考え方を紹介する。 |

| 計画 | | |
|---|---|---|
| | 1回 | 講義概要、クラス登録 |
| | 2回 | 中国語で名前を言う、発音の練習 |
| | 3回 | あいさつプリント、発音の練習 |
| | 4回 | 中国語の発音はローマ字を使用します。このローマ字のことを「ピンイン」と言います。ピンインを覚えよう |
| | 5回 | ピンインの綴り方を学習する |
| | 6回 | 母音を覚えよう |
| | 7回 | 子音を覚えよう |
| | 8回 | 発音と声調を習得する |
| | 9回 | 家族の言い方を覚えよう、会話プリント |
| | 10回 | 教科書第１課「自己紹介」 |
| | 11回 | 家族、友達の紹介 |
| | 12回 | 教科書第２課「これは何ですか？」 |
| | 13回 | 「あれはなんですか？」 |
| | 14回 | 疑問詞の使い方 |
| | 15回 | 否定と肯定 |
| | | |

| | |
|---|---|
| テキスト | 『新版　一年生のコミュニケーション中国語　白水社』<br>その他、資料、プリントを配布 |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>『フレッシュ中国語』（白水社）、『日中辞典』 |
| 授業の評価方法・基準 | ※初回の授業で案内します。 |
| 履修条件 | |
| 事前事後の学習 | |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 授業終了後 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | |

| 科目区分 | 共通 | 科目名 | 中国語Ⅰ（後半） | 担当者 | 周　雪 | 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業要件 | 選必 | 免許・資格要件等 | ― | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | 日本の中でも、沖縄は地理的にも歴史的にも中国に一番近い県です。この講座では「話せる中国語」を目指してチャレンジさせる。 |
| 授業概要 | ①中国語は四つの声調を持つ言葉です。まずその基本となるピンインについて学ぶ。<br>②簡単な会話文を中心に学んでいく。<br>③基本文型について学ぶ。<br>④聴覚教材等を使用して、中国人の生活習慣、風俗文化やものの考え方を紹介する。 |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 16回 | 教科書第３課「これはいかがですか？」 |
| | 17回 | 会話プリント、使う単語の量を増やす |
| | 18回 | 中国映画を鑑賞 |
| | 19回 | 映画の感想を発表 |
| | 20回 | 教科書第４課「買い物」 |
| | 21回 | 数詞、量詞とは |
| | 22回 | すぐ使える会話中心に練習する |
| | 23回 | 会話の置き換え練習 |
| | 24回 | 教科書第５課「どこにありますか？」 |
| | 25回 | 助動詞“要”、“想”の使い方 |
| | 26回 | 簡単な会話文を作る |
| | 27回 | 視聴覚教材等を使用し、読解のための能力を身につける |
| | 28回 | 日常会話の練習 |
| | 29回 | 会話プリント |
| | 30回 | これまでの講義の総まとめ |
| | 31回 | テスト |

| | |
|---|---|
| テキスト | 『新版　一年生のコミュニケーション中国語　白水社』<br>その他、資料、プリントを配布 |
| 参考資料等 | 【購入を必須としないもの】<br>『フレッシュ中国語』（白水社）、『日中辞典』 |
| 授業の評価方法・基準 | ※初回の授業で案内します。 |
| 履修条件 | |
| 事前事後の学習 | |
| ｵﾌｨｽｱﾜｰ | 授業終了後 |
| 受講生へのﾒｯｾｰｼﾞ | |